

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400112		
法人名	社会福祉法人 安全福祉会		
事業所名	グループホーム安全の里		
所在地	亀山市住山市字大掛590番地1		
自己評価作成日		評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2490400112-00&ServiceCd=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	元年	11月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム安全の里では、法人の理念に基づいて、ご家族や地域と共に支え合いながら、最後まで自分らしく暮らして頂けるよう支援させて頂いています。一人ひとりの能力に応じて、自立支援につなげています。本人、家族が安心して暮らせるよう優しい介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りを自然豊かな木々に囲まれ、事業所隣には同一経営法人による特別養護老人ホーム、デイサービス施設等が併設されている為職員同士の交流も頻繁にあり、利用者は多数の目に守られ安全に日々生活している。長年介護にかかわる管理者は、法人理念の優しい介護をより深く追求し利用者それぞれを一人の人間として尊重し、深く本人を知ること努力を惜みず、利用者のできることを見極め、利用者の自立を支援している。利用者の楽しみである食事には、強い思いを持ち食べたいものをおいしく楽しく食べてもらいたい思いから、毎日利用者とチラシを見ながら会話して、一緒に買い物に行き職員が交代で手作りし食事を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所でのキャッチフレーズを考え実践につなげている。	法人理念の優しい介護を念頭に、今年度よりグループホーム独自のキャッチフレーズを考案し玄関に掲示している。それを職員会議でも周知し、利用者本位で、利用者をよく知り、利用者のできる事を把握し支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人としての地域のつながりはあるが、グループホーム安全の里としての地域との交流はまだ出来ていない。	保育園児の慰問を受けたり、小学校の福祉体験を受け入れ交流を行っている。ボランティアのアロマセラピーの方が来所され利用者がハンドマッサージをうけたりしている。開所まだ間もないため、徐々に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人としての地域貢献は行っているが、事業所自体は活かすことが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者の状態や、サービスの報告を行い、参加者からの意見を取り入れサービスの向上に活かしている。	隔月に1回家族の参加もあり、グループホーム単独で開催している。ヒヤリハットの報告も行い、出席者からの意見を募ることにより、そこから家族の意向を把握したり事故予防の気づきを得るなど有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係は構築できているが、日頃から密に連絡は取り合っていない。市町開催の連絡協議会等に積極的に参加し協力関係を築くように努めている。	市のグループホーム連絡協議会に毎月出席し情報を交換したり、市の主催する研修には積極的に参加している。また介護相談員の訪問も定期的に受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関出入り口は普段施錠しているが、非常時には手動で開くようになっている。	身体拘束等の適正化委員会を3か月に1回開催し、毎月職員が講師となる学習会を開きそこで身体拘束をしない支援について取り上げ、職員の意識の向上・知識の共有を行っている。また支援の際、否定的な言葉を使わないよう職員同士が注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を実施し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、家族の意見・要望にはしっかり耳を傾けている。	家族が面会にこられることが多いため、その際応対した職員・管理者が意見を聞くようにし、その内容を会社用のアイパッドに入力し、連絡ノートにも記載し見た職員が署名するようにして情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、業務の中で職員と話をする機会を設け運営に反映させている。	支援の現場に出ている管理者と職員の垣根もなく、お互い気づいたことを言い合える関係が築かれている。毎月1回の職員会議でも意見を出し合い、年に1回利用者職員全員での旅行で、コミュニケーションを深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて、定期的な給与規程の見直し、勤務状況の把握、衛生推進者の配置にて、職員の労働実態を常に把握し、過労はないか注意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対して、内部研修の実施や、外部研修の参加を積極的に行えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会に参加し、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談の実施、アセスメントを行い、困っていること、要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と密に連絡を取り、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の支援の中で変化に気づき、より良い対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の人としての尊厳を尊重した関係性作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係性を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めているが、本人の状態変化等により、なじみの関係性が薄れてきているケースもある。	家族の協力を得て馴染みの美容院を利用したり、友人の面会を楽しみにしている方もいる。また職員付添いの通院の帰りに自宅に寄って庭を鑑賞したり、馴染みのパン屋よってみたりして、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を把握し、良好な関わり合いがもてるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家庭でも安心してサービスが受けられるように退所前の相談、在宅ケアマネとの連携をしてフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの何気ない会話や発言から、本人の希望や意向の把握に努めている。	普段の利用者の発言や行動から、管理者・職員は意向や希望を利用者の立場になって推し量るようにしている。その内容をiPadに入力し、その情報を職員が共有することにより気づきの機会を増やしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや、本人との関わりの中でその人らしい生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する本人の現状の把握に努め、職員間で情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で意見を出し合い、本人がより良く暮らせるよう介護計画を作成している。	毎月のケース会議で利用者の現状、家族からの意向を把握し、サービス担当者会議で医師からの意見を取り入れながらケアプランを作成している。その後、毎月モニタリングと評価を行い、利用者の現状に即しているか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICTを活用して介護記録を記入し、職員間の情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに対応できている面もあるが十分ではない。型に捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を活かしきれていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医との良好な関係が築けていると思う。	家族の同意がある方は協力医がかかりつけ医で、従前のかかりつけ医を利用されている方もいる。通院は職員が付添、状況を家族に報告して健康管理している。歯科衛生士による口腔ケアも今後定期的に受けるよう検討中である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、適切な看護がうけられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて病院関係者との情報交換や相談の場を持っている。訪問看護ステーションの助言や協力もあり、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算を取得し、重度化にも対応している。早い段階から話し合いを持つことは出来てないが状態変化時には、かかりつけ医や訪問看護ステーションと連携しながら、チームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に家族には、重度化した場合や終末期のあり方を説明し了解を得ている。協力医・訪問看護ステーションの看護師と24時間の連携がとれており、本人・家族の意向を随時確認しながら対応している。	利用者の高齢化、介護度の上昇を見込んで、入居時に口頭での説明と合わせて、本人・家族が安心して納得した最期を迎えられるように事業所が対応しうる内容を共有できる書類整理は、急務であり検討が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、AEDの講習や初期対応の訓練は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	学習会や防災訓練等により、防災意識の向上を図っている。	年2回法人合同で防災避難訓練を行っている。今回は火災訓練2回、土砂を想定した訓練を1回行い、その際今まで法人一括で管理していた備蓄を職員の話し合いによりそれとは別に水・食料・ガスコンロ等をグループホーム独自で備蓄し、防空頭巾も手作りで準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや接し方に配慮し、優しく笑顔で接するように心がけている。また、人格を尊重しプライバシーに配慮した対応を行っている。	利用者の自尊心を傷つけないよう利用者の個人情報をはかの利用者に聞こえないようにするなど、職員は細やかな配慮、声掛けするように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたいが、希望に添えないことも多くある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重している。洋服は、本人が選択できるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望を取り入れながら、家庭的な料理を作っている。	管理者は利用者の楽しみは食事と考え、利用者と一緒にチラシを見て食べたいものを聞きながら、食材と一緒に買い出しに行くこともあり、三食職員が手作りで提供している。月に一回理事長が、利用者・利用者家族にも料理をふるまっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、量や形など調節している。好みの飲み物で水分を確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの必要性を理解し、食後口腔ケアを実践し清潔保持に努めているが、口腔ケアを嫌がり介入出来てない方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援は行っているが、個々の能力や排泄パターンを把握するまでには至っていない。	職員がアイパッドにそれぞれの排泄の記録を入力し、それを参考に昼間はリハビリパンツをはいてもらい自立排泄を目指して声掛け支援している。夜間は居室のトイレを使用し、困難な方は家族の同意の下ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数や便の状態の把握に努め、また職員間での情報共有をしっかりと行っている。献立の工夫や水分摂取を促し、スムーズな排便が行えるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、週3回と決まってはいるが、外出や体調不等で入浴されなかった時は、翌日に入って頂くなどの配慮はさせて頂いている。一人ひとりのペースで、ゆっくり入浴して頂いている。	週3回午後から入浴している。一人の職員が利用者の着替え・入浴を担当し、ファンレストテーブルを利用しているため着替えの際の利用者・職員の負担軽減に役立っている。入浴時間も特に決めず、利用者本位で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調・照明などの環境整備に配慮し、その時々本人の状況に応じ関わりを持ち、安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルがあり、内容の把握に努めている。薬の変更があれば、連絡ノートや職員会議等で情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や楽しみごとの把握に努め、力を発揮できるように支援している。月2回外出支援を行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新設の工事を行っていることもあり、日常的な散歩などは難しい状況であるが、施設行事として、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	今期から食材調達を宅配に頼らなくして、その分日常的に利用者と一緒にスーパーへ買い物に行ったりしている。また、利用者それぞれ「手作りおにぎり弁当」を持参して公園まで出かけてそこで弁当を食べて遠足を楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本施設でお預かりしている。今後、お金を所持したり使えるように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話をかけたりすることはないが、希望があれば対応し、直接家族と話す機会を提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られたスペースのため、すべての方が居心地良く過ごしてもらうことは難しいとは思いますが、間仕切りを設けるなどの配慮はしている。工事中の雑音が不快にならないよう音楽をかけたり工夫している。	居間の高い天井からは、暖かい日差しが差し込んで管理者がこだわった6角の特注の机は、さまざまな組み合わせが可能で、利用者の相性で配置を変えている。床はバリアフリーのフローリングが台所・居室・トイレ・ふろ全てとつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファを設置しくつろいでいただくスペースもあるが、一人ひとりの居場所づくりと考えると出来ていないため、今後の課題として検討していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた備品や好みの物を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるよう、本人・家族と相談しながら支援している。	ベッド・洗面所が備え付けで、あとは利用者が家族の写真を飾ったり、テレビを置いたりしている。二部屋借りている夫婦は、ベッドを取り払い布団を並べて使用し起きると布団を片付けて、自分たちの好むよう使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を十分に活かすことは出来ていないと感じている。		